連続講座
全3回

幼い子どもの文学を考える

文学の面白さを、最初に覚える「幼年文学」。5歳から8歳を中心とした読者を、大人は、長い間、つかみきれていませんでした。
英米で幼年文学が成立していく歴史を辿った後、作家・翻訳者・図書館員として活躍された渡辺茂男、松岡享子両氏の作品を通して、日本での受容と幼年文学の魅力を考えていきます。

講師

三宅 興子さん

当財団特別顧問、
梅花女子大学名誉教授

児童文学研究者、絵本研究者。
大阪生まれ。日本イギリス児童文学会会長、絵本学会会長、日本児童文学学会理事などを歴任。2010年～2015年6月まで大阪国際児童文学振興財団理事長を務める。

[主な著書]
『イギリス児童文学論』翰林書房 1993年 /『イギリス絵本論』翰林書房 1994年 /『イギリスの絵本の歴史』岩崎美術社 1996年 /『ロバート・ウェストール』KTC中央出版 現代英米児童文学評伝叢書2008年 等多数

第1回

幼年文学の歴史
—英米の歴史を中心に—

平成30年 12月22日［土］

20世紀前半まで、イギリスの影響下にあったアメリカの子どもの本の世界ですが、1930年代から独自性のある作品、特に、幼年文学や絵本を生み出していきます。英米における幼年読者の「発見」に至る歴史を、具体的な作品を読みながら辿ります。

第2回

幼年文学をよむ①
渡辺茂男作品を中心に

平成31年 1月26日［土］

作家としても翻訳者としても、渡辺茂男作品は、多くの読者に愛読されてきました。その中から、特に重要な業績といえる「幼年文学」を取り出して、具体的な作品を読みながらその全容を振り返ります。

『エルマーのぼうけん』
ルース・スタイルス・ガネット/作
ルース・クリスマン・ガネット/絵
わたなべしげお/訳
福音館書店　1963年7月

第3回

幼年文学をよむ②
松岡享子作品を中心に

平成31年 2月23日［土］

東京子ども図書館の活動で著名な松岡享子さんは、作家・翻訳者・語り手として、「幼年文学」に大きな貢献をされてきました。作品を読みながら、幼年文学と語りとの関わりやユーモアなどについて考えます。

『みしのたくかにと』
松岡享子/作　大社玲子/絵
こぐま社　1998年12月

場所 大阪府立中央図書館 2階大会議室
東大阪市荒本北1-2-1　近鉄けいはんな線荒本駅　北西400m

時間 14:00 - 16:00

- 対 象 ／子どもの本に関心のある方ならどなたでも
- 定 員 ／各回50名（申込先着順）
- 参加費／各回 一人 1,000円
- 申込方法／HP、電話、ファックス（受講希望の回を明記してください）

主催・問合せ
一般財団法人
大阪国際児童文学振興財団
International Institute for Children's Literature, Osaka
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL 06-6744-0581　FAX 06-6744-0582
http://www.iiclo.or.jp/　E-mail:office@iiclo.or.jp

助成：子どもゆめ基金助成活動